

波郷 記念館 だより

第49号



発行日 令和2年8月25日

江東区砂町文化センター
〒136-0073
東京都江東区北砂
5-1-7
電話 03(3640)1751

石田波郷『江東歳時記』と江東の風景

石田波郷は、昭和二十一年から戦後の十二年間を現在の江東区北砂の地に住みました。その十二年間に、波郷が実際に足を運び丹念に調べ、句とともにつづったのが、『江東歳時記』です。

砂町文化センターでは、毎年十一月、石田波郷記念館企画展を開催しています。今年は、『江東歳時記』をテーマに取り上げます。そこで「波郷記念館だより」では、前号に引き続き『江東歳時記』のなかから、江東区取材した記事と俳句を紹介していきます。今回は秋の句です。

南砂町五丁目元八幡で

「煤煙の濃く淡く渡る鳥もなし」

石田波郷

砂村の「元八幡」と句碑

前書きの「元八幡」は富賀岡八幡宮（江東区南砂七丁目）のことです。江戸時代に刊行された名所案内記『江戸名所図会』にも下図のような挿絵が描かれています。左奥に社殿、右手前は浅瀬。その間を道が通っているのがわかります。

「砂村富岡元八幡宮」

『江戸名所図会』

国立国会図書館ウェブサイト転載



現在、その境内には次の二基の句碑があります。

・芭蕉句碑「めにかかる雲やしばしの渡鳥」

・五明橋石文句碑「ここらにそ鳥居ありたき汐干道」

それぞれ文化二年（一八〇五）

と文政四年（一八〇七）の

建立です。

波郷も『江東歳時記』で

書いていますが、芭蕉句碑の

句は誤刻で、正しくは

「日にかかる」です。



現在の「元八幡」（富賀岡八幡宮）と境内の句碑



もう一基の句碑「ここらにそ鳥居ありたき汐干道」は、かつての砂村の風景を詠んだ句です。

隅田川を越えて深川方面から海岸沿いを歩いて来た人の「そろそろ富賀岡八幡宮の鳥居が見えるはずなのだ・・・」という気持ちを詠んでいます。

このあたりは、江戸の市中から日帰りで訪れることのできる風光明媚な行楽地でした。「元八幡」は桜の名所で、歌川広重も名所江戸百景に描いています（左図）。



歌川広重
「名所江戸百景 砂むら元八まん」
国立国会図書館ウェブサイト転載

江戸小日向廓然寺住職の十方庵大浄敬順は元八幡を訪れた一人です。

著書『遊歴雜記』文化十一年（一八一四）の中で「目に障る物なく、唯青海の青みたる風色いはん方なし」「別世界の如し」とその様を表現しています。

波郷の句と砂町の工場街

冒頭にあげた波郷の句「煤煙の」は、句碑に刻まれた芭蕉句「日（目）にかかる」を踏まえて詠んだと思われる。芭蕉の句も波郷の句も季語は「渡り鳥」です。

本句は、波郷が「私はひそかに南砂町の工場街の真中の元八幡を訪ねた。」「江東歳時記」と記すとおり、戦後、工場の建ち並んだ砂町地域を詠んでいます。

波郷には、ほかにも砂町の工場を詠んだ句があります。

「煤煙急ぎ雲はしづかに朝焼けぬ」石田波郷

波郷は次のようにコメントしています。

・「ベッドに仰臥してゐると、わづかに北窓にひらける砂町工場街の空だけが眺めであつた。朝一刻の景。」

句集『春嵐』私注

・「私の北窓には左手の墓原とその奥にわづかなバラック住居が並んで警察署の裏に連つてゐる。その手前は荒れたまゝの空地である。然しそれらの景もベットに横たはればすべて見えなくて、わづかに警察署の四階か

ら上がのぞいてゐるばかりの、夏の朝ならば、けふの日照りを思はせる青空ばかりだ。その青空をゆくものは、雲と鳥と煤煙である。雲の峰はまぶしく遠く巨大であるし、時に低く灰色の雲が東へ移つてゆく。雲の峰よりも親近を覚える。鳥はこゝらでは雀か燕、鳩、まれに鴟がとぶ。朝焼けの空を雲がほのかに染まつてしづかに移つてゆくのは、とにかくもけふの平安を約されるやうである。煤煙は雲の下を大急ぎでゆく。（略）」

「自句自解」（昭和三十一年）

※警察署・・・城東警察署

秋の季語「渡り鳥」

「渡り鳥」とは、一般には、秋になつて渡つて来る鳥と帰つて行く鳥の両方を言いますが、俳句では、日本で冬を過すために渡つて来る鳥のことを詠みます。秋の季語です。

雀らも真似して飛ぶや渡り鳥 一茶 「九番日記」

渡鳥雲の機手の錦哉 蕪村 「蕪村句集」

砂町文化センターニュース VOL.49

第20回

石田波郷記念「はこべら」俳句大会 作品募集中

砂町を「第二の故郷」と呼び愛した、昭和を代表する俳人・石田波郷を顕彰する「はこべら」俳句大会を開催します。

- 投句 二句一組（兼題 波郷についての俳句一句、雑詠一句）
 - 選者 上田日差し・岸本尚毅・鈴木しげを・徳田千鶴子・能村研三
(五十音順)
 - 賞 「はこべら」賞 一名、石田波郷記念館賞 一名
各選者による特選三句、入選十句
 - 投句料 二句一組千円
 - 大会句集 授賞式までに、投句者全員に送付。
 - 締切 12/10（木）必着
- ※詳細は、江東区内各文化センター、総合区民センター、芭蕉記念館で配布の「募集要項・応募用紙」またはホームページをご覧ください。

「俳句実作講座～句会に学ぶ俳句～」 受講生募集

波郷創刊の「鶴」は今年900号を刊行しました。

講師には「鶴」四代目主宰の鈴木しげを氏をお迎えし、実作と句会をとおして俳句を基礎から学びます。

- 講師 鈴木しげを（「鶴」主宰）
- 日程 10月24日（土）、11月7日（土）、11月28日（土）、
12月26日（土） 【全4回】
- 時間 13時30分～16時
- 会場 砂町文化センター 2階 第1会議室
- 定員 20名
- 受講料・教材費 6,500円・300円

9月10日
から
申込受付